

委員会名	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業 泉南	施設長	松尾 好記	印
	第 18 回介護医療連携推進会議 議事録	管理者	徳永 公江	印
		書記	清水 健二	印
開催日時	令和 8 年 (2026 年) 3 月 17 日 (火) 10:00~11:00			
開催場所	泉南医療福祉センター 2階 応接室			
出席者	荒川康彦 (新泉南病院 事務部長) 神藤昭宏、佐古愛里沙 (泉南市健康福祉部長寿社会推進課) 田中知子 (地区福祉委員長) 永本美純 (包括なでしこりんくう管理者) 徳永公江 (管理者) 山崎泰子 (事業係長) 畑原智子 (計画作責任者) 清水健二 (書記)			
欠席者	藤澤和美 (民生副委員長) 田口義彦 (シルバーハウジング会長)			
討 議 内 容				
<p><開会のあいさつ> (各参加者)</p> <p>・開会にあたり、出席者より自己紹介を行った。</p> <p>泉南市長寿社会推進課、地域包括支援センター、医療機関、近隣住民、地域の有識者、事業所関係者等が参加し、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業泉南に関する情報共有と意見交換を行った。</p> <p><実績報告> (清水健二)</p> <p>・介護スタッフは昨年度より 4 名体制を継続しているが、人員不足及び収支バランスにより、補充が難しい状況が続いている。</p> <p>利用登録については、終了 16 件に対して新規 14 件と 2 件下回る結果となった。平均介護度は、訪問介護のみ利用の場合、要介護 1 および要介護 3 の割合が比較的高い傾向にある。要介護 4~5 については、ターミナル期での登録が多く、短期間で利用終了となるケースがみられた。</p> <p>訪問件数は、ターミナル期や重度利用者の有無により、月ごとに増減がみられる。</p> <p>相談元は居宅介護支援事業所が 18 件と大半を占めており、一度利用されたケアマネジャーからの再相談につながるケースも比較的多い。</p> <p>一方で、定期巡回・随時対応型訪問介護看護というサービス自体が、ケアマネジャーにまだ十分知られていない可能性もあり、サービスの選択肢として検討されていないケースもあると考えられる。担当のケアマネジャーがより良い支援を考えるうえでも、このサービスについて知っていただく機会を増やしていくことが重要である。</p> <p>今後は、関係機関への情報発信や周知を進めながら、本サービスへの理解を深めていただき、地域の在宅生活を支えるサービスの一つとして活用していただけるよう取り組んでいく。また、地域の関係機関との連携を図りながら、在宅生活の継続を支える体制づくりにも努めていく。</p> <p>【ご意見】</p> <p>・特に無し</p>				

<事例検討>

対象者：S 様（女性・要介護 5・家族同居）

・利用経緯：ALS（筋萎縮性側索硬化症）を患い、本人・夫・長男の 3 人暮らし。長男は就労しており、夫は腰痛およびパーキンソン病を抱えていることから、本人への介護負担が増大していた。排泄介助を主な目的として、令和 7 年 1 月より定期巡回・訪問看護サービスの利用を開始した。

・主な支援：定期巡回により 1 日 3 回（朝・昼・夕）の短時間訪問を実施。排泄介助、モーニングケア（顔拭き・口腔ケア）、ポータブルトイレの洗浄、安否確認、車いす移乗などを支援。訪問看護は週 3 回（月・水・金）実施し、状態観察や医療的管理を行っている。

・状況と課題：ALS の進行に伴い発語機能が低下し、意思疎通が難しい場面がみられたため、言語ツール等を用いたコミュニケーション支援を実施。

呼吸状態悪化など急変のリスクがあり、家族は強い不安を抱えていた。主治医・訪問看護・ケアマネジャーと連携し、在宅看取り体制の整備を行った。

本人より「最期まで自宅で過ごしたい」との意思が確認されており、救急搬送や延命治療の希望について家族と事前に話し合いを行った。

定期巡回の短時間・複数回訪問により、体調変化の早期把握や家族の精神的負担軽減につながった。また随時対応体制が家族の安心感につながっている。

【まとめ（事業所としての学び）】

- ・進行性疾患においては、早期からの ACP（人生会議）の重要性を再認識した。
- ・家族への継続的な支援が、在宅看取りを支える重要な要素である。
- ・定期巡回サービスは、短時間・複数回訪問と随時対応により、看取り期においても有効な支援形態であると考えられる。

【看護からの補足】

- ・ALS の進行に伴い身体機能が低下
- ・PEG（胃ろう）造設後、経管栄養へ移行
- ・本人の希望により ポータブルトイレ使用を継続
- ・介護・看護スタッフ間で 移乗方法を統一

在宅医と相談を重ねながら、呼吸器導入などの意思決定支援を実施し、最終的に自宅での看取りが実現できた。

【ご意見】

荒川事務部長より、ALS という進行性難病の事例において、定期巡回サービスの特性が活かされ、本人の意思を尊重しながら在宅での看取りが実現できた点は非常に意義のある支援であるとの意見があった。今後も地域包括ケアの中で継続した支援体制の充実を期待するとの助言があった。

<自己評価・外部評価>

- ・別添「外部評価表」を読み上げる。

【ご意見】

- * 「AIは有効だが、依存せず適切に活用することが重要」と助言あり。

- * 「広報活動はどのように行っているのか」

事業所回答

- ・ 季節ごとのチラシ作成
- ・ ケアマネ研修での事例紹介
- ・ 市役所へのパンフレット設置
- ・ 今後は地域への周知方法の強化が必要

- * インフォーマルサービスについて、包括より

- ・ 認知症カフェなど地域資源との連携
- ・ 家族支援の場として活用可能
- ・ 困りごとがあれば相談可能 との意見が挙がった。

<その他>

- ・ 次回開催予定日時について、松尾院長の外来業務がある午前中は避けることとする。
令和8年9月頃の予定は調整後改めて連絡とのこと。

<次回開催予定日>

- ・ 令和8年(2026年)9月中旬ごろ(別途連絡予定) 泉南医療福祉センター 2階応接室